

共同運営部門：リウマチセンター

—関係部署—

| 役 職 | スタッフ名 |
|---|--------|
| センター長兼膠原病内科部長 | 入交 重雄 |
| 副センター長兼整形外科部長 兼脊椎センター長 兼機能外傷センター脊椎外傷部門長 | 金澤 元宣 |
| 整形外科部長兼人工関節センター | 澤田 典与司 |

—概要—

大阪府の泉州南部における中核病院であるりんくう総合医療センターでは、膠原病内科と整形外科が連携して関節リウマチの治療にあたっている。

近年新たな関節リウマチの治療薬が次々と利用可能となっており、当院においても以下に述べる新しい治療薬を積極的に使用して良好な治療成績を得ている。具体的には注射薬である生物学的製剤としてはTNF抑制薬（インフリキシマブ、エタネルセプト、アダリムマブ、ゴリムマブ、セルトリズマブペゴル）、IL6受容体抑制薬（トシリズマブ、サリルマブ）、T細胞活性化阻害薬（アバタセプト）がある。また、生物学的製に引き続き、経口薬であるJAK阻害薬が処方可能となった。JAK阻害薬（トファシチニブ、バリシチニブ、ペフィシチニブ、ウパダシチニブ、フィルゴシチニブ）により当院の多くの関節リウマチ症例において寛解、低活動性の状態維持が可能となった。

膠原病内科および整形外科それぞれにリウマチ専門医がおり、両科協力体制のもと、内科的および外科的視点による総合的診療が可能である。

また、ナビゲーションシステムを用いたコンピューター支援手術による正確な人工関節設置などの最新の機器も利用し診断、治療の向上に努めている。中央検査部にこちらから働きかけ新たに関節エコーを枠を作ってもらい必要に応じて様々な関節をエコー下に観察し診断や治療評価に役立てている。

当院は、日本リウマチ学会教育施設、日本整形外科学会認定制度研修施設、日本リハビリテーション医学会研修施設である。

—実績—

【2022年度関節リウマチ患者外来受診者数】

| | 受診者数 |
|-----|------|
| 4月 | 33 |
| 5月 | 34 |
| 6月 | 46 |
| 7月 | 37 |
| 8月 | 47 |
| 9月 | 31 |
| 10月 | 35 |
| 11月 | 45 |
| 12月 | 37 |
| 1月 | 37 |
| 2月 | 44 |
| 3月 | 38 |
| 合計 | 464 |

—今年度の成果と反省点—

関節リウマチ症例に関して、適宜リウマチセンタースタッフにより検討した。

—来年度への抱負—

今後も内科的および整形外科的観点から総合的に関節リウマチに対応していきたい。